

ドラマティック・シアター 2022
野田秀樹作品二本立て

2023年3月28日(火)

12:00開演 (11:30開場) ①田野企画「贖作・罪と罰」

17:00開演 (16:30開場) ②山田企画「赤鬼」

贖作

罪と罰

脚本 野田秀樹

脚色・演出

田野邦彦(准教授)

作 野田秀樹

脚色・演出

山田宏平(講師)

赤鬼

会場
主催

MUSIC POOL CINO
洗足学園音楽大学・大学院

新型コロナウイルス感染症の 感染拡大を防ぐためのお願い

- ・ マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・ 大声や対面での会話はお控えください。
- ・ 演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・ 休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・ 客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・ 出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・ 万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

12:00開演 (11:30開場) ① 田野企画

「贗作・罪と罰」

ドストエフスキー作「罪と罰」 (翻訳：工藤精一郎／新潮文庫 より)

脚本 野田秀樹

脚色・演出 田野邦彦 (准教授)

演出ノート

慶応3年10月14日、新暦では1867年11月9日。徳川十五代将軍慶喜が朝廷に政権を返上し江戸時代の終焉を告げた「大政奉還」が行われます。歴史の大きな転換点に向けて、坂本龍馬ほか歴史に残る偉大な志士たちが下派手に立ち回り、そして火傷しそうなほどに沸騰した熱に、当時の江戸や京都が、日本が、包まれていたのでしょう。

同じ頃、東海道や畿内を中心とした地域の民衆たちは「ええじゃないか」と歌い踊り騒ぎ狂います。大きな社会現象となった「ええじゃないか」騒動が一体なんだったのかは今でも諸説あり謎のままですが、この狂喜乱舞は、《世直し》の機運とともに1867年8月から12月まで続いたとされています。日本の各地で民衆たちが「ええじゃないか」と叫び狂い踊っていたのは、自分たちの生活やおかしくなってしまった世の中への変化を望んでいたからと言えます。

大政奉還から1年前の1866年。ロシアで、ドストエフスキーの小説『罪と罰』が刊行されます。頭脳明晰で正義感溢れる大学生ラスコーリニコフが、「選ばれた非凡人は、新たな世の中の成長のためなら、社会道徳を踏み外す権利を有する」という思想から、強欲で性悪な金貸しの老婆を殺害してしまうことで始まる長大な物語。ラスコーリニコフは極めて貧乏で、学費滞納を理由に大学から除籍処分を受けています。つまり、『罪と罰』の物語の背景からは、若者たちの貧困と格差社会という、今の私たちの時代と通じる深刻な社会問題が透けてみえてきます。

1995年4月。日本を代表する劇作家・演出家である野田秀樹の名作『贗作・罪と罰』が初演されます。『罪と罰』の構造を幕末の江戸に置き換え、そこに「ええじゃないか」や坂本龍馬の暗躍を加える野田さんの手法はあまりに天才的で美しい。と同時に、この作品からは圧倒的な“切実さ”が感じられます。その理由のひとつに、野田さん自身が学生時代にあたる1960年代後半から70年代にかけて直接目撃・経験した学生紛争や「内ゲバ」事件の影響が挙げられます。あの時代の狂氣的ともいえる排他性や攻撃性はまた、『贗作・罪と罰』の初演直前の1995年3月20日に発生し日本中を震撼させた地下鉄サリン事件と不運にも符合してしまっただけでなく、2023年、今の日本や世界各国が置かれている様相とも奇妙に交錯するのです。

・・・そう、歴史を振り返ってみれば、私たちはいつも繰り返してばかりです。同じ過ちを繰り返しては、その度に同じ喜びや理想のためにと人々は集う。それもやがて忘却の彼方へと追いやられ、また敗れ去り、そしてまた立ち上がる。今は、またこの世界に戦争が起こり、新しい戦前が始まっています。もはや、例えば、ベートーヴェンのように《苦悩から歓喜／勝利へ》という大きな物語を芸術の側から描ける時代すらとっくに終わっているのかもしれない。しかし、100年かもっと先から人々が今の私たちのことをどう見るのだろうか？と想像してみると、やっぱり、「次の一步を踏み出すことから始めよう」と、思うのです。祈りとともに。

田野邦彦 (准教授)

12:00開演 (11:30開場)

①田野企画

キャスト

三条英

才谷梅太郎 (坂本龍馬)

都司之助

英の母・清 / ほか

英の妹・智

溜水石右衛門

英の父・甘井間太左衛門 / ほか

老婆おみつ / ほか

おみつの妹・おつば / ほか

下宿屋の女主人 / ほか

志上イトウ / ほか

志上ヤマガタ / ほか

志上オオクマ / ほか

志上クロダ / ほか

志上カツラ / ほか

仁助 (左官屋) / ほか

左官屋 / ほか

警察署の受付 / ほか

口付護之進 / ほか

警察署員 1 / ほか

警察署員 2 / ほか

取調官 / ほか

中平結子 (学1)

村田志衣 (学3)

末永弥咲 (学2)

小鹿原睦実 (学3)

平井涼 (学2)

江島彩華 (学1)

佐藤大世 (学3)

三浦萌々華 (学2)

水野月葉 (学2)

工藤綾乃 (学3)

中村彩愛 (学3)

林福美 (学1)

田中希英 (学1)

山田瑞葉 (学1)

才川花心 (学3)

細川花澄 (学3)

舟生未来 (学3)

後藤妃那 (学3)

藤田芽衣 (学1)

正木寧々花 (学2)

柳凜央 (学1)

中村恵香 (学2)

17:00開演 (16:30開場) ②山田企画

「赤鬼」

作 野田秀樹

脚色・演出 山田宏平 (講師)

演出ノート

「赤鬼」はある浜辺が舞台です。そこに、よそ者という理由で疎まれていた兄妹がいます。とんびは村社会の一員としては扱われず、妹は浜の男たちに体だけを求められています。誰も彼女と人間的な繋がりを持つとせず「あの女」と呼んでいます。

浜辺に異国語で書かれたメッセージが入ったガラス瓶がたくさん流れ着きます。ミズカネはメッセージを解説して村のヒーローになろうとしますが、日頃の言動ゆえに嘘つきとして扱われ、村社会の信頼を得ません。ある日浜辺に、椰子の実より大きな何か流れ着きます。それはひとりの男ですが、異国人を見たことのない浜の人々は恐怖し、彼を赤鬼と名付けます。その翌日、浜辺で赤鬼はあの女と出会います。

このお話を、寓話 (ぐうわ) として描こうと思います。参考にしたのは以下の話です。

★テナンとピセアダイの物語／テナンという女がいた。ピセアダイという男がテナンの表情を見て憎まれていると思い、殺してしまった。神様が現われてテナンの心臓を開くと、ピセアダイへの愛でいっぱいだった彼女は愛しているときと憎んでいるときの表情がまったく同じだったのだ。(小川国夫「愛と憎みの顔」)

★熊と少女の物語／少女が森で熊と遭遇した。逃げ出すと熊が後ろから追ってきた。少女が落としたイヤリングを届けたくて熊が追ってきたことを知った少女は誤解を解き、熊と仲良く歌い踊った。(童謡「森のくまさん」)

★ロミオとジュリエットの物語／長年敵対する家の長男と長女であるロミオとジュリエットは、舞踏会で正体を知らず出会い、正体を知っても愛を育んだ。両家の敵対が強まって二人の愛は歓迎されず、二人は不運な死を遂げるが、それを機に両家は対立を終えた。(ウィリアム・シェイクスピア「ロミオとジュリエット」)

★パードリックとコルムの物語／島民全体が知り合いな孤島で暮らすパードリックとコルムは長年の親友だ。ある日、コルムがパードリックに突然絶縁を告げた。驚いたパードリックは理由を知ろうとするが、コルムから「これ以上俺に関わったら、俺の指を切り落とす」とわけのわからない警告をされた。(映画「イニシエリン島の精霊」)

寓話で描かれるのは、人間社会でよく起こる、けれどなぜそうなったか理解しがたい出来事です。寓話はそれを、動物や神様、あるいは異国人や昔の人を登場人物にして描き出します。

人間のコミュニティはとても難解です。勝手にルールをつくるし、素直に従っていたら勝手にルールが変えられていたりします。

明確な理由やしっかりとした確認がなくても周囲の空気や気持ちや態度を変えたりしますし、されたりもします。それは時には厄介でめんどくさく、腹も立ちます。不完全だからです。

でもその不完全さを、僕はとても愛おしく思います。その不完全さに隠れた想いには、明日への希望や期待がいっぱい詰まっているからです。

その希望や期待に応えようと、あるいはその希望を次の誰かにきちんと繋ごうと、僕は手を尽くします。残念ながらたいはいはどうしても出来ませんが。

13人のキャストと3人の演出助手。16名の愛しい学生たちの力を得て、人間や人間社会の不完全さ・唐突さ・意味のわからなさを描く寓話をつくりました。

お楽しみいただけたら幸いです。

山田宏平 (講師)

17:00開演 (16:30開場) ②山田企画

キャスト

あの女

ミズカネ／ほか

とんび／ほか

赤鬼／ほか

裁き屋／ほか

検事屋／ほか

ムトウ／双子のババア／ほか

秀松／双子のジジイ／ほか

秀松の母／ほか

秀松の父／ほか

超長老／ほか

長老／ばばあ／ほか

捨松／ほか

三木理紗子(学2)

安西美咲(学1)

松崎花音(学3)

野口美琴(学1)

木賀翠(学3)

小橋杏佳(学4)

武藤遥香(学4)

今泉和歌子(学3)

石上美来(学2)

内田愛(学1)

玉川雅(学1)

花村華音(学1)

小山葵生(学1)

演出助手

伊井紫涼寧(学4)

若林瑞珠帆(学4)

松本響(学4)

スタッフ

照明	瀬戸あずさ（講師）
音響	（株）TACT
舞台監督	穂苅竹洋（講師）
制作	海野匡代（AC）
教室提供	洗足こども短期大学事務局
公演監督	篠原真（ミュージカルコース芸術監督）